

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993300025		
法人名	有限会社 煌めき		
事業所名	グループホーム煌めき		
所在地	奈良県北葛城郡広陵町南郷417-1		
自己評価作成日	平成29年5月22日	評価結果市町村受理日	平成29年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成29年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して2年4か月が経過し、現在、女性ばかり9名入居されています。今年4月より、1ユニット9名に変更させて頂きました。人員の確保がむずかしく当面は1ユニットで、9名の方にしっかり寄り添い、満足行く介護をしていきたいと思っております。当グループホームは周囲がのどかな田園風景で、葛城山や二上山が望めます。田んぼ道を散歩されたり、神社の境内でおしゃべりしたり、のんびり過ごして頂いています。生活面では、旬の野菜やくだものを提供させて頂き、季節感を味わって頂いています。余暇活動では、近隣のスーパーへお買い物に出かけ、好きなおやつを選んで頂いたり、一人一人の残存能力に合わせて歌や体操、機能訓練をしています。その他、年に1回外出に出かけています。ご家族に、たいへん喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から少し入った、葛城山や二上山も望める風光明媚な静かな場所に有ります。自治会の行事(秋祭り等)への参加や、引きこもり防止のためにサロンでの交流、近隣保育園の園児の事業所訪問等、地域との交流を積極的に行われています。また、定期的にボランティアによる腹話術等も開催し、利用者が豊かに暮らせるような支援がなされています。職員も明るい人が多く、事業所は笑い声の絶えない明るい雰囲気が醸し出されて、利用者の笑顔が充満しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目が届く位置に掲示し、常に意識を持って支援できるようにしています。	フロアに理念を掲出し、会議等で職員同士が確認し合い、日々のケアで共有されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議で情報を得て、できる範囲で地域のイベントに参加して頂きたいと思っています。(おしゃべりサロン)	自治会の行事への参加や、地域のおしゃべりサロンを交流の場として参加されています。また、近隣の保育所からの園児の訪問があり、七夕会を催して地域との付き合いを深めておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議を通じ、地域の方のご意見に耳を傾け、お役に立てれるよう説明させて頂いています。そして認知症に対してのご理解を頂きたく、時々入所者様の日常生活の様子をお話しさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の出席率がすばらしく良く、とても意義ある会議と満足しています。職員間で情報の共有をしサービス向上に活かしています。座談会形式で行っており、気軽に意見を述べて頂けるようにしています。	2ヶ月に1回会議を開催されています。自治会長・民生委員・役場の職員・利用者家族等の参加があり、座談会形式で気軽に意見が言える雰囲気づくりに努めておられます。利用者家族からは日頃のケアに関する感謝の言葉が多く出ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は密にとっており、事あるごとに、相談させて頂いています。	所長が役場の福祉関係委員会の委員に名を連ねている関係上、役場の担当者等とは顔なじみであり、情報・連絡交換を密に行い、協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みをしていますが、問題が発生した場合、その都度話し合い工夫しています。ご家族とも相談させて頂き、命に危険を伴う場合はセンサーマット取り付けも検討しています。	朝7時から夕方5時までは玄関の開錠を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでおられます。また、職員は勉強会等で身体拘束について確認し、職員間で意識の共有が図られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待防止の勉強会を実施し、一人で抱え込まないよう情報交換している。職員間でも密に連携しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料にて勉強会を開催しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分に説明させて頂いています。質疑応答も自由にして頂いた上でご捺印して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時およびご自宅訪問時のご要望ご意見等は職員間で情報の共有をし、運営に反映させています。	家族とは、普段から気軽に声をかけられるような関係を築き、運営推進会議等で気軽に意見が言えるように取り組んでいます。また、家族には月1回利用者の事業所での様子(写真等)を郵送して連絡を取られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き、自由に意見を発表できる機会を設けています。	月1回のスタッフ会議や定期的に管理者との話し合いの場を設けて、職員の意見を運営に反映させています。また、問題があれば随時意見を反映できる機会も設けておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の要望を把握し、常に耳を傾けている。シフト面などできるだけ希望に添うよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会はできており、職員一人一人の状況も把握しています。施設内の勉強会は担当者を決め、定期的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との長い交流があり、お互いに情報交換しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係が第一といつも考えているので、こまめに言葉かけしたり、話題の内容を工夫したりして体に触れスキンシップをはかっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、しっかり話し合い雑談も交えて困っておられることやご要望をお聞きし、交流をはかっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーの基本は「本人、家族にとって今一番何に困っているか」「どういサービスが必要か」だと思っているので、ニーズの把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士までは行かずも、家族としての意識は全員が持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携は密に行っており、家族からは施設での様子がよく解って有難いのご意見もある。その他、担当者を決め月1回ご様子表を作成しご送付させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や以前支えて頂いた関係の方等には、自由にご来所して頂き、大きな変化がある場合はご報告させて頂いています。馴染みのスーパーへ時々、買い物に行くこともあります。	利用者の状態に応じて、イベントへの参加や馴染みのスーパーでの買い物等、継続的な支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの性格や好みなどは、職員間で把握し、不穏にならないよう席替えを行ったり、気軽に話し合える環境作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、本人、家族の様子を時々伺い、場合によっては相談や支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の場合、なかなか本人の思いや意向の確認ができないが、会話の中で伝わってくるものがあり、本人本位で支援しています。	日々の関わりの中で声をかけ、利用者の意向の把握に努めておられます。意志疎通が困難な利用者は、家族からの聞き取りを行い情報を得られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	少しでも多くの情報をえるため、日々家族、知人等関係者様が来所の際、生活歴や好み等、会話の中で収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、職員間で情報伝達し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別計画や介護計画を作成し、モニタリングの時は、いろんな意見を出し合って反映に努めています。	利用者に対して日常のケアの中で課題の把握に努められ、医師・看護師・家族等の意見を反映させて介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、職員間で情報の共有をし実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の方にとって、環境の変化が命取りと言っても過言ではない位。慣れた生活で規則正しい生活が最も適していると考えているので、体調に合わせて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年とは少しADLの低下が目立ち、地域のイベント参加に限りがありますが、可能な限り納涼まつりや花火大会、外食に出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、説明させて頂き、納得の上、受診して頂いています。家族の負担が軽くなると喜ばれています。	かかりつけ医への受診は基本的には家族の付き添いで継続されています。また、月2回の協力医の往診や歯科の訪問診療もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師を中心に、情報や気づきの伝達を常に行っており、往診時に反映している。月2回の往診で病気の早期発見に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院があり、入退院時は必ず病院に向きカンファレンスを開催して頂き、退院後の日常生活全般の注意事項など聞かせて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、軽く終末期のご意向を確認した上で、書面にご署名、ご捺印して頂いています。本人、急変時、もう一度ご家族の意向の確認をさせて頂いています。	これまでに2回看取りを経験されています。利用者や家族の意向を踏まえ、医療関係者職員が連携を取りながら事業所がチームで支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行ってはいないが、マニュアルを作成し事故発生時に備えて行動の確認を随時行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、毎年2回防災訓練を実施しています。今後、同敷地内の他事業所に働きかけ、地域との協力体制を築いていく方針。	年2回の避難訓練を実施されています。地域の方の協力もあり、職員と利用者が一緒に訓練が行われています。また、屋外の倉庫に備蓄も保管されています。	年2回の避難訓練には地域の方の参加がありますが、災害が発生した時は立地上孤立してしまう恐れもあるので、今後も災害時対策の支援・理解を深め、地域との強固な協力体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になられても、分け隔てなく人格を尊重し言葉かけさせて頂いています。特別扱いしないよう気をつけています。	利用者一人ひとりの尊厳を尊重した声掛けが行われています。また、トイレでの介助についても、さりげない見守り等プライバシーに配慮した援助をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において常に、本人の意志の確認を行ない、意思決定が困難な場合は、体調を見て支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に、無理強いないようしているも、集団行動が多くほとんどリビングで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の衣服のコーディネートなど支援させて頂き、季節の変わり目など衣替えは家族様に連絡し持って来て頂いています。トイレの後など、よく下着が垂れ下がっていることがあり、声掛けにて身だしなみを整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の様子を常にチェックし、何が好きで何をよく残されるか把握し、時々「食べたいもの、ありますか？」とたずねています。準備や後片付けなど可能な方には手伝って頂いています。	利用者の好みを確認して支援されています。お好み焼き等利用者の意見を取り入れた献立作りから簡単な調理をすることで、利用者も楽しんでおられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は日々チェックし、促しています。栄養バランス等は御弁当屋さんの関わりがあり、メニュー表を見て検討、不足分は購入して補っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はこまめに歯磨きや入れ歯洗浄を行っています。月2回訪問歯科により、定期健診を受けていただき、口腔管理しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便の量や時間の記録をし、声掛けやトイレ誘導しています。立位が困難にならないよう普段から、手すりを持って下肢筋力強化運動をしています。	個々に応じた排泄の誘導を行い、排泄の自立のに向けた意識を持って支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認し、便の出にくい人には食事面や乳酸菌飲料で調整しています。強度の便秘症の方は医師の処方にて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に添った入浴法や入浴時間で入って頂いています。ただ現実には職員体制の都合上、曜日や時間帯は施設側で決めさせて頂き、月曜から金曜日、週2回とさせて頂いています。その他、必要に応じて対応させて頂いています。	入浴日は設定せずに月曜から金曜日までの午前2回の入浴を基本として、個々の状態や希望に合わせた入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や湿度に気を配り、安心して気持ちよく休んで頂けるよう支援しています。季節の変わり目などは寝具を調整し、どうしても寝付けない場合はリビングで過ごして頂くこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、施設看護師が管理し体調を見ながら服薬して頂いています。急変時はすぐ医師に相談し中止することがある。毎月、薬の仕分けは薬局で頂き、間違いのないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前できていたことができなくなり、意欲が低下していることは事実です。一人ひとりの得意なことを把握し無理のないように進め、散歩などで気分転換したり庭で日向ぼっこなど試みしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はよくスーパーへ買い物に出かけてましたが、現在は歩行困難となられ外出の頻度が少なくなっているのは事実です。頻繁には行けませんが、ドライブなど喜ばれます。	季節にあった外出やレクリエーションを企画され、屋外に出る支援を積極的に行っておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、金銭管理は家族に行って頂き、毎月お小遣いとして薬代や消耗品代を差し引かせて頂いています。買い物時の支払いでお金を持ってもらったこともありましたが、現在は職員が行っています。一人ひとりの症状に合わせて検討したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは現在ありません。今後、お手紙が届き、ご希望があれば支援させていただきます。電話の場合はいつでも対応させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のいい環境づくりは常に行っています。ただ座席替え一つでも不穩になる場合があります。慎重に行っています。壁掛けや装飾品などは季節感を味わって頂けるよう工夫しています。	壁掛けや装飾品などは、利用者と共に飾りつけをされ、季節感が感じられるように工夫されています。室内の温度や湿度も適切に管理されており、居心地の良い空間で明るい雰囲気は保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が弾んでいる利用者様同志の席を近づけたり、共通の趣味がある場合など一人ひとりの表情を絶えず気にかけて、職員間で工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と相談し、本人が大切にされていた物や愛用の物など依頼しています。その他、本人の状態を見て窓からの景色を楽しんで頂けるよう工夫しています。	居室には利用者が普段から愛用されていた馴染みの物や家族の写真も多くあり、利用者が居心地よく落ち着いて暮らせる工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同生活の場として動線を確保し、安全に移動して頂けるよう工夫しています。居室の清掃などは現在、職員が行っていますが、テーブルの上で洗濯物をたたんで頂いたり、ゲーム等の後片付けをお願いしています。		